



## 衣川 寛介

### 『銀の馬車道 2』

『たじま生野から十里の流れ その名も市川水清き ア〜ドッコイショ』  
子どもの頃、市川の河原で踊った盆踊りの一節で、吉川（よかわ）念仏踊りの流れをくむ『播州音頭』です。中学時代までは綺麗な水で、水泳の授業は学校の東 500 mほどのところを南北に流れる市川でした。東京にお住まいの石山様（仮称）から但馬と生野の案内雑誌が送られて来ました。ご高齢の彼は旧制姫路中学校へ播但線を利用して、生野から通学されていました。お父様が生野鉦山の技師として勤務されていたのです。生野と姫路（飾磨港）は銀の馬車道、後には播但鉄道（現在のJR播但線）を通じて、深い関わりを持ったのです。

生野町の見学に訪れた我々のために、あいにくの雨にも関わらず、ボランティアガイドさんが2名すでに駐車場でお待ちになっていました。二組に分かれた私たちを案内して頂いた60才を少し越えられた、彼は自己紹介の中で『行政区分では但馬になっている朝来市（あさごし）生野町ですが、同級生など昔の仲間が集まると、あまり綺麗でない播州弁で話すことが多く、皆様と同様の播州人です。』気さくに話をしながら案内して頂いたのは、代官所跡に立っている「生野義挙碑」、「旧生野警察署」明治19年（1886）に建築されたもので、棟瓦に警察紋章とその下に旧の町章がつき、区民会館として現在も利用されています。寺町には8ヶ寺が一行に並んでいます。西から順に来迎寺、東西寺、西福寺、金藏寺、教徳寺、禅操寺、妙詮寺、本行寺最も古いのは生宝山 金藏寺 浄土真宗本願寺派で開基は永久元年（1113）と聞きました。人口の少ない町にしては、お寺の多いのに驚きました。教徳寺の石垣が光っています。銅を製錬した時のカス（からみ）が使われていると言うことです。さすが鉦山の町と感心し、磁石をつけてみました。ごらんのように石垣に磁石がつかしました。

地役人の家、四代続く医師の家など町中を散策しながら姫宮神社へ向かいトロッコ路の跡と市川の源流を眺めました。最後に生野まちづくり工房「井筒屋」でお茶の接待を受けました。ここは幕府の役人などが宿泊した郷宿を公開し資料展示や銀の馬車道グッズ、手作り菓子などを販売しているボランティアの拠点です。寒い中の暖かいお茶に感謝し、バスで生野銀山に向かいました。

参考 寺町通りの寺院


<http://ginnosato.web.fc2.com/npo-teramati.html>

『鉄のふしぎ博物館』

来て！見て！ふれて！ ふしぎ体感

鉄を見る目がかわりますよ。

ぜひお越しください。



製銅カス  
磁石にツイタ



ガイドさん



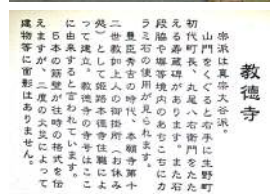
旧生野警察



屋根の町章



来迎寺



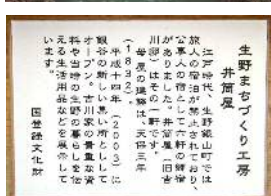
教徳寺



石垣と磁石



市川の源流



井筒屋

ホームページと電子メールをご利用ください。

<http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>

<http://www.kanamonoya.co.jp/auto/>

<http://www.kanamonoya.co.jp/catena/>  
[ryou@memenet.or.jp](mailto:ryou@memenet.or.jp)

[bike@kanamonoya.co.jp](mailto:bike@kanamonoya.co.jp)

むらの鍛冶屋®



何でもお気軽にお尋ねください！！